

アジア初の脱原発に向かって台湾

—「ノーニュークス・アジアフォーラム in 台湾」報告—

報告：佐藤大介、後藤政志

来年1月11日の総統選挙・立法委員選挙を前にした台湾でノーニュークス・アジアフォーラムが開催された。11か国が参加し、国際会議のほか、副総統（副大統領）との面会、第一、二、三、四原発の現地へ。

第一原発1号機は昨年12月に、2号機は今年7月に40年の寿命を迎えた。廃炉が決定している。日立・東芝が原子炉を輸出した第四原発の建設は2014年に凍結。

2017年、民進党政権は民衆の声にこたえ、脱原発政策（2025年までに原発ゼロ）を決定した。しかし国民党をはじめとする原発推進派は、18年の国民投票で「2025年までに」を覆してしまった。韓国瑜（国民党の総統選候補）は第四原発を再開すると明言している。

推進派とのせめぎ合いのなか、アジア初の脱原発に向かって奮闘努力している台湾の状況を報告します。



第三原発



第四原発ゲート前

12月14日（土）

14:00～16:30

「スペースたんぽぽ」

（水道橋ダイナミックビル4F）

千代田区神田6 三崎町 2-6-2

800円（学生半額）

主催：たんぽぽ舎 連絡先：03-3238-9035

●後藤政志「台湾第四原発は、私が東芝で設計に従事していた柏崎刈羽6号機と同型のABWR（改良沸騰水型）です。ABWRは最新の原発と言われますが、熱出力当たりの格納容器の容積が小さく、安全性が懸念されていた原発です。

第四原発の門の前で、ノーニュークス・アジアフォーラムに参加された皆さんと、横断幕を広げてシュプレヒコールをしたことは万感の思いでした。また、第四原発の建設に反対して長い間たたかってこられた台湾の人たちと交流できたことは大きな成果でした」